

<p>おやじ必読 おやじ メール O-mail</p>	<p>Vol. 5 12 年 9 月 平和幼稚園 おやじクラブ</p>
--	---

O-mail は、おやじクラブから平和幼稚園の全おやじへの情報発信のための新聞です。

先生から「ファイト！一発」

「もう4年... はや4年...」

3組担任 荒井 恵

平和幼稚園で仕事を始めて4年目にしていること...「お父さんとの交流が増えたなあ」、そして「おやじクラブには濃いキャラをお持ちの方が増えたなあ」ということ...。

1年目は、まだ初々しかった(はずの)私。おやじクラブのお父さん達とは何を話して良いのかも分からないまま過ぎてしまいました。

2年目はお父さん達ともすっかり打ち解け(なにせ担当したクラスにおやじクラブが8人!!) なんとお賑やかに過ごすことが出来たのを覚えています。

3年目には園に新人の先生が加わって先生の平均年齢が急に下がり、私もつられて若くなったつもりでいたのですが、新人の先生方と話す時よりも「おやじ」の皆さんとの会話の方が盛り上がるようになっていて、やっぱり、確実に歳をとっている(おやじの皆さんに近づいている)らしいと実感させられたのでした。

そして4年目のことは...認めたくはないけれど教員の中ではベテランの方になってしまいました。4年間のお付き合いの方もいれば、1年目の方もいるおやじクラブ、私が勤務を始めた頃とは雰囲気が変わって、なんだか不思議な気分です。

最近思うことは「おやじクラブ」の皆さんと段々と腹を割って話ができるようになったなあということ。話の内容は様々ですが、人生の先輩として、また、父親として子どもの話をしていられるお父さんを見ると、「やっぱり結婚っていいナ～」と思うのは私だけでしょうか。お母さん達とは何かと話す機会もあり、私自身話し好きなので楽しいのですが、おやじの皆さんもお母さん達とはまた違った話ができて、とても勉強になると感じています。

おやじのつぶやき

「自然からのさずかりもの」

12組 湯浅 信市

この夏、海や山などへ出かけ、子供達とともに自然とふれあい様々な体験をなされた方も多かったのではないかと思います。

私も純真な(?)子供の頃、セミやアゲハチョウの幼虫が羽化していく様子や、田舎の夜空で見た満天の星など、自然の持つ神秘や不思議に感動したことを今でも鮮明に覚えています。

最近、自然に接する機会が少なくなったとは言え、目下、我家の小さな娘達にとって、身近な自然が好奇心の対象の様です。

アリが自分の数倍もある死んだ虫をせっせと運んでいるのをしゃがみ込んでじっと見ていたり、虫かごの中のトンボにご飯だと言ってむしった草を入れてみたり、色の付いたきれいな石を宝石だといって夢中に拾い集めたり、どこまでも追っかけてくるお月様に恐怖を感じたり、などなど、幼いながらも自然の持つ不思議さを少しづつ感じとっている様です。

小さい時から自然とふれあい五感を使って自然を感じとり、様々な体験を通し自然だけでなく人に対する感性もはぐくんで欲しいものだと思っています。

おやじクラブの行事の中にも、田植え体験やネイチャースクールなど、おやじ講師の下で実際に良い体験ができる機会があります。

ややもすると、社会の中で固定的なものごとの捉え方しかできなくなりつつある自分自身、子供と共に自然を通して、感性を豊にしていきたいと思う今日このごろです。

今月の話題

「日本型家族の崩壊を超えて」

京東京大学教授上野千鶴子

日本経済新聞「経済教室」要約

これまで日本社会の安全装置であった終身結婚制と日本型経営(終身雇用・年功序列・企業内組合の3点セット)が危うい。

夫は会社と結婚し、妻は会社員の夫と結婚し、安定した専業主婦の地位を手に入れた。生活能力のない夫と経済力のない妻の日本型婚姻関係は世界に冠たる安定性(97%以上の驚くべき婚

姻率)を誇ってきたが、このこところ婚姻率は急減し、日本型全員結婚社会は過去のもの。

こうなると子育てが難しくなる。いい学校へ入れていい会社へ就職するという男の子向けパターンも不況やリストラで会社が減私奉公に報いてくれるか分からない。子供から見れば、長期にわたる単調で苦痛の多い教育に耐える理由がなくなる。女の子はシングルインカムで世帯を維持できる経済水準の男を見つけることは難しく、短大～一流企業～寿退職という「おんな出世すごろく」の上がりはもはや上がりではない。男の子には「会社を離れても生きていけるような力」が、女の子には「結婚を生活保障にしない生き方」が求められる。

先進工業諸国では 70 年に旧社会システムの崩壊を経験し、血を流す構造改革を経験したのに、日本では社内雇用を確保し男性労働者の長時間労働で乗り切った、そのツケが今まわってきているのだ。

これまではそれがお買い得だから男は「会社人間」となり、女は「無業の妻」になったが、今やその選択はリスクが多く保証もない。

そこで問題は、こういう変化にふさわしい人材が育成されているかだが、日本の高等教育...大衆化しレジャーセンター化した大学、学力が低下し崩壊する授業、学生の受動性と同調性を高めるだけのマスプロ教育...。人材を生み出す土壌が日本にはなく、親や会社に依存する守りの体質をどっぷりと身につけた若者に次代は託せない気がする。

8月行事の報告

8月9日(水) 琴似の居酒屋やまべで幹事会が開かれました。今回は夏休み中にも関わらず園長先生、副園長先生はじめ先生方も参加頂き、会社帰りのおやじ達と先生も含め総勢 20 名の幹事会となりました。今回の議題の1つが9月10日に開催される運動会のペイジェント(先生とお父さん、お母さんで作る劇)の配役でした。先生からペイジェントのあらすじや登場人物のキャラクター等の説明の後、「その役ならMさんしかいない」「この役は是非私にやらせてください」といった感じで、あっという間に配役は決まってしまいました。

ペイジェントの説明の前に運動会全体の概要

の説明があったのですが、「今年から運動会は午前中で終わり」との説明に、「園庭で元気に走り回る我が子を見て、青空の下で家族で弁当食べるのが運動会の醍醐味なのに」と、先生と熱い運動会論議を交わしているおやじもいました。

幼稚園としては、子どもの体力と集中力を考慮しての判断だったようです。

運動会終了後は園庭を解放していただけるそうなので、昼食を取ったり、もう少し体を動かしたりできるようです。

8月26～27日厚田村山の手学園セカンドスクールでネイチャースクールが開催されました。今回は100人を上回る参加となりました。詳細は次号で報告します。

9月行事のお知らせ

9月23日(秋分の日)に救命講習会が開かれます。消防署のプロの方を幼稚園にお呼びして、講義を受けた後、人形を使い人工呼吸や心臓マッサージの練習をします。この講習を受けると普通救急救命士としての免許証が交付されます。

9月24日(日)は、午前中には秋のゲーム大会(お-ろ-行事、家族で参加可)があり、幼稚園園庭で子ども達と綱引きやボールゲームを楽しみます。また、ゲーム大会の後は、6月に田植え体験で植えた稲を収穫し、その米を脱穀、精米、炊飯して試食します。

後記

幹事会で運動会の話しをしている時に、「最近、我が子の運動会だと言うのに弁当づくりを面倒に思う親がいるようだ。」という話がありました。

子どもにとっては、自分が主役の運動会に家族みんなが来て、お母さんが作ってくれた弁当を家族一緒に食べてとっても美味しかった、という思い出は、何にも変え難いと思うのですが

担当：なみかわ

E-mail：namikawa@mpd.biglobe.ne.jp